

イベント・レポート

東日本大会 in 群馬

男子エリートは松澤（京葉） 女子エリートは塩田（筑波）



ルート解説をする松澤選手（M21E）

11月5日、群馬県松井田町で東日本大会が開催された。トレインは13年前のインカレで使われた小根山森林公園。スタートまで一気に200m登りがあることに象徴される、急斜面トレインである。しかし、コースの方はエリートでも400mに押さえるなど、トレインの制約をうまく回避する工夫がなされていた。地図の出来もよく、レグやコントロール位置なども適切で、東日本大会にふさわしい大会であった。

特に男子エリートでは、大きなルートチョイスがいくつかのレグであり、本格的なクラシックコースと評価できる。反面、女子のエリートはルートチョイスという点では少し物足りなさを感じた。

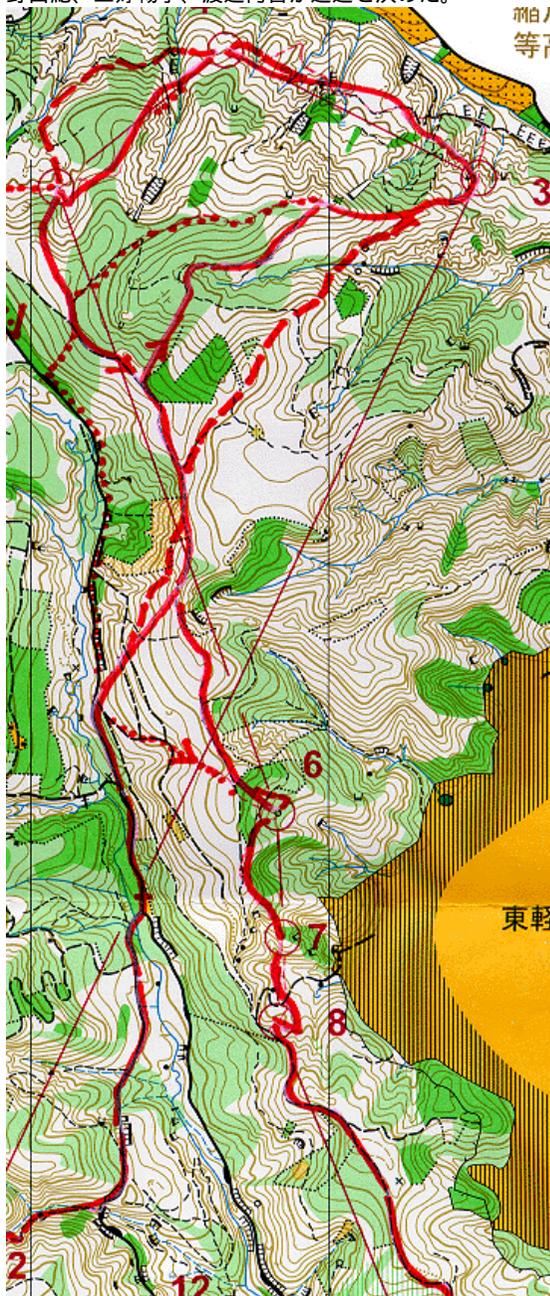
群馬県協会の大会は「よくモノをくれる」という評判は、この大会でも裏切られなかった。各クラスの高齢者や遠くから来た人への賞品は、参加者にお得感を感じさせた。たかが賞品かもしれないが、大会に出てモノをもらう楽しさも大会出場の欠かせない楽しみである。準備の大変さは忍ばれるが、今後もこの伝統を継続してほしいものだ。

また会場でのジャズ演奏など、参加者に楽しんでほしいという演出が随所に感じられたのも好感が感じられた。東西では伝統的に表彰式が行われていなかったが、それを行った英断（あえてそう呼ぼう）にも敬意を表す。多くの若者のあこがれであるエリートクラスはおいでとしても、子どもたちに表彰されるという喜びを与えることは、非常に重要なことだ。偉大な世界チャンピオンであるノルウェーのベッテル・トゥールセンでさえ、きっかけは大会でもらったトロフィーであったといっているくらいだ。

首都圏での東日本にして参加者600人という「冬」の訪れを感じる昨今、どうしたら大会を楽しくできるかという発想は重要であり、その点でも学ぶべき点の多い大会で

あった。

本大会は、来年フィンランドで開催される世界選手権の予備選考の緒戦であった。エリートの上位7名までが予備選考を通過する。男子では、松澤俊行、村越真、加賀屋博文、山口大助、山本英勝、鈴木卓弥、高橋善徳が通過。女子では、塩田美佐、金並由香、落合志保子、田島利佳、高野由紀、三好暢子、渡辺円香が通過を決めた。



大きなルートチョイスのある2-3（実線：松澤、破線：村越、点線：加賀屋）

エリート上位のコメント

松澤俊行 (M21E1位)

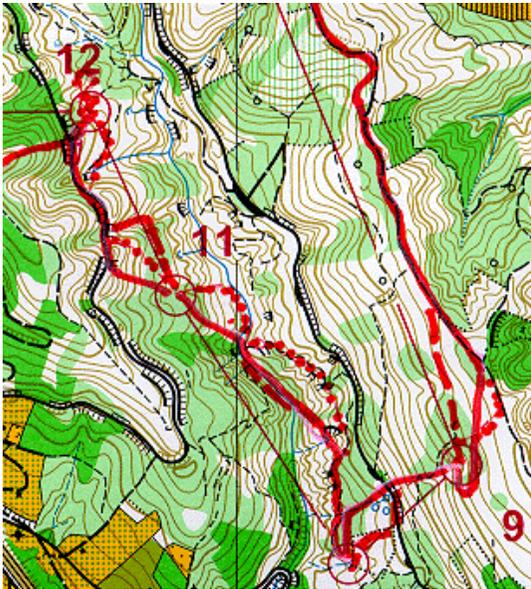
「中国遠征直後でもあり、疲れていると言っても周りは納得しただろう。今年公認大会ですで一勝しているし、世界選手権予備選考ということを考えれば七位以内を狙うというも悪くなく思えた。しかし何でも言い訳になりえるからこそ何事も言い訳にしない者が勝者の資格を得るのだ。勝利に対して貪欲になって良かった。本当に嬉しい。

村越真 (M21E2位)

様原ほどのショックはないですね。あれ以来、登りじゃ大差を付けられないようにと思ってトレーニングしてきたから。その成果は出たと思っています。ここ半年は松澤に負けが込んでますが、まあ人生の楽しみがまた一つ増えたということでは...

加賀屋博文 (M21E3位)

今日は、目標にしたレースの一つだったので、自分としては動機づけは強いレースだったと思います。でも、1、2でミスをして崩れてしまった。全体としてもリズムに乗れなかった。ただ我慢はして走りました。また最後(12番)でミスをして、気がぬけたというか、トップを目指していたんですけど、切れを欠いたと思います。



予想外の大差のもととなった11 12。10 11も地図からは読めない情報にどう対処するかが、タイム差につながっている。

塩田美佐 (W21E1位)

道走りが多かったせいもあって、波ののってレースをしていました。テラインは、藪いと思っていたので、アタックの動作はしっかりやらないといけないと思っていました。なので、スピードの出せるところでは、出して、止まるべきところ(私の場合、おもにチェックポイント、違和感を感じた時)では、しっかり止まって、地図をしっかりと見ようと思ってレースをしました。(しっかり止まって見ないで、さーっといくとツボる傾向があることがわかっていたので。)

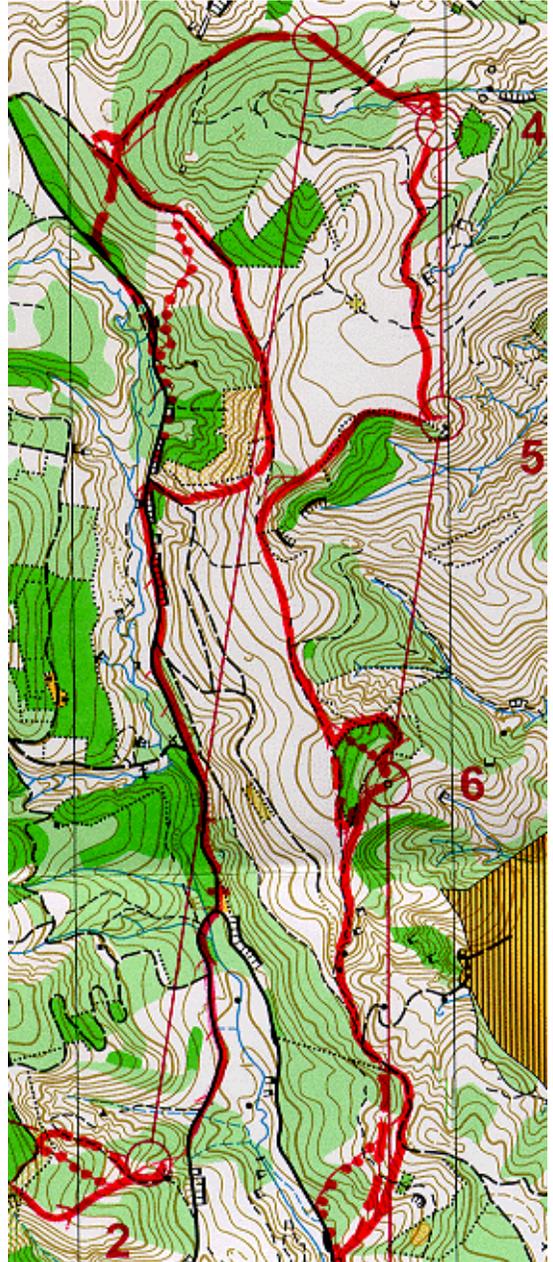
その意識があっただけ、それがしっかりとできたので、大

きくミスをせずに気持ち良くレースができました。ミスにすぐに対応できたのが大きかったです。思ったより、藪くなくて快適でした。

1位は気持ちいいなって思いました。

金並由香 (W21E2位)

勢いにのった走りで、いきなり1番でミスして、もたもたしました。そこからは盛り返したんですが、登りでスピードが出ませんでした。ええ、前日妙義山に登ってたんで、今までに比べたら、まだ地図は読めたと思います。



女子エリート核心部。実線：塩田、破線：金並、点線：落合。2 3にルートチョイスが若干あるが、ルートチョイスという点ではやや単調。

落合志保子 (W2 1 E 3 位)

まだあんまり走れていないし、(前の週のパークOの)疲れがあったけど、あえて疲れをとって臨もうとした訳じゃなかったの、今一つでした。あと、おニューの靴を履いていたので、2番でもう靴づれができていたかったんです。自分が悪いんですけど、給水所でもどうしようかと悩んだけど、そのまま通り過ぎてしまいました。靴づれの処理に5分かかったとしても、それは取り返せなかったと思います。

いい加減にした訳じゃないけど、準備がなってなかったですね。

榛原大会

京大O L C 許田重治

男子は松澤、女子は落合が制す

10月8、9日に関西の学生有志でクラシック、リレーの2日間大会が奈良県榛原町で行われた。初日は、エリートポイント指定レースということもあり、2日でのべ700人近くの人が集まり、会場のたかぎふるさと館は賑わいを見せた。

今大会は、最近減少しつつある関西の使用可能Oマップを増やそうという趣旨のもと、関西学生有志が集まって、ニューマップ作成が始まった。ほとんどの学生が初調査で地図作製は困難を極めたが、調査と試走を繰り返し、地図に手直しを加えていった。そして大会コントローラーに技術委員の奥村理也氏を迎え色々指示をいただいたほか、ワールドカップやインカレの地図調査者である中村弘太郎さんに、3次調査直後2日間入っていただいたお陰で、十分使用に耐えうる地図になった。

今回作成した「千本杉」は、かつて全日本大会が行われた「菟田野」の近郊トレインである。「千本杉」のある榛原町は他にも「長者屋敷越」「蔓万両」など、数々のトレインが存在する関西では有名な地域である。

さて、秋のシーズン最初のエリートポイント大会を制したのは、男子は京葉O L Cクラブの松澤俊行選手、女子はO L Cルーパーの落合志保子選手。2人にインタビューを行った。

ME優勝者 松澤俊行選手

1. 今回の大会に対してどのような準備を行いましたか？
過去の榛原地区の地図(菟田野、長者屋敷越)を充分読んだ。きちんとルートプランニングをして走り出すことを意識した。特に必ずあるであろう集落通過レグでは道のつながりを読み切ってから動くよう注意が必要だと考えた。

急斜面へのアタックが多くなるだろうことが予想された。等高線1本1本をどういう角度で横切っていくか注意するくらいの気持ちが必要だろうと考えた。とはいえ、急斜面のエリアは、調査も作図も設置も難しいから、やることをやった上で思い通りにならないことが、ままある。そういう時でも冷静さを保つようメンタルリハーサルを行った。

2. しばらく行われていなかった関西の大学大会という

ことで、地図の精度に についてはどうでしたか？また、地図の精度に難があると感じたときは どのように対処しているのでしょうか？

運営者の皆さんは心配していたようだが、大きな難は感じなかった。毎年大会を行なう大学クラブの地図くらいの仕上がりを想定して臨んだが、大体期待通りだったと思う。全員が初調査とレース後に知ったが、それを加味すると上々の水準にあると思えた。

地図の精度レベルが落ちるからといって、それに合わせて自分の手続きのレベルを落とさないこと。以前はそういう地図に対してやる気を失い、手続きがいい加減になることが多かったが、最近は地図がどうも、と気づいたら対抗手段として「自身の手続きの厳密さを1ランクレベルアップさせよう」と言い聞かせている。

例えば、必要ない、と思われるくらい短い距離であってもコンパスのリングを回した上でアタックする、というように。仮にそれでコントロールに辿り着けなかったとしても、原因は自分にはない、と確信できるのでロスタイムに伴う気持ちの萎えを防ぐことができる。あと、もう一つ大切なのは、どんな地図であって尊い労力の結晶であることを忘れないこと。

3. ゴール時のレースの出来、感触は？ 得意の登りも多かったし、大崩れせずまとめることができたので「いけるかな」とは思った。ただ、線の乗り換えも多いコース、その辺のつなぎのスムーズさでは村越さんが勝る。ゴール後も村越さんに1分程度負ける可能性はあると考えていた。実際には村越さんに2分47秒差の勝ち。「それくらい勝つ可能性もある」と、想像の範囲内ではあったが、勝てたのはやはり嬉しい。

WE優勝者 落合志保子選手

1. 榛原の大会は秋のはじめのエリートポイント指定レースだったわけですが

この大会に向けて何か準備をしましたか？また、目標はありましたか？夏の遠征後トレーニングを十分にしていなまま迎えた大会だったので、特に準備らしいことや気持ちの盛り上がりはなかったです。ただ技術的にはできるだけ追い込んで走ること、アタック周りを正確にと言うことを考えていました。

2. 地図の精度はいかがでしたか？また、学生の調査ということで、このことを意識して、レースに備えていたということはありませんか？

地図はレースに影響がでたり公平さを欠くような位置にコントロールが置かれていなかったため、特に問題となるようなことはなかったと思います。ところどころ距離のずれやイメージのずれはありましたが、どの大会でもある程度のものであったのではないのでしょうか。基本的に余り地図の出来などを気にしないので特に何も考えていませんでした。

3. レース自体の出来とゴール後の心境を教えてください。中盤で既に体力切れをおこし十分には走り切れませんでした。それはわかっていたことだったので全体的に見ればこんなもんかなという感じです。ゴール後は特に何も。千本杉を見ました。

4. これからの目標を教えてください。

速くなりたい。フィンランドの世界選手権でファイナリストになることが当面の目標。そのためにはトレーニング嫌いを克服する事が今一番の課題です。

運営者（競技責任者）としての大会運営の感想

私自身、運営経験は少々あるものの、一から地図を作るのはもちろんのこと2日間大会という大規模な大会運営も、初めてであった。しかも、初日がエリートポイント指定大会ということで、コースプランには、コントローラーの奥村さんと相当な時間をかけた。その甲斐あって、コースの評判は割とよく、ほっとしている。また、今回心がけたのが、「絶対に不成立にしない」「大会の質をできるだけ高め、少しでも多くの方に満足していただく」ということであった。その点に関して今回は合格点をもらえたのではないかなと思う。

しかし、実は私たちにとって何よりも大きかったのが、「関西の学生が大学の枠を越えて協力しあい、大会を成功させた」ということである。これまでにはないことで、とても良い経験であり、思い出深いものとなるはずである。ほんの一部だが、大会後の運営者の声を。

- ・私はきっと、再試送りになることでしょう。
- ・い、いまさっき到着しました... 殉死寸前。琵琶湖大橋を越えたあたりで何故か急に眠くなり始め、琵琶湖岸を大声で歌いながらの帰宅となりました。
- ・大会は終わってもまだ成績表作りが残っております。
- ・アンケートの集計サボりまくります。
- ・参加者の満足な声が聞けたのは大変な励みになったのではないのでしょうか。皆さん、本当にお疲れさまでした。2日間大会に参加して下さいみなさん、本当ありがとうございました。

第18回岩手大会参加方向 武石雄市

岩手大 OLC 部員の勇気を称える

10月22日岩手県滝沢村で開催された岩手大学大会は部員立った7名で開催した。同大会に参加した小比賀健司氏（つくばROC）が参加コメントをインターネットに流しました。

私も、部員とサポートする信原靖君（岩手大OB）の真摯な姿を見て、その内容にまったく同感なので小比賀氏の了承を得て上位の成績とともに原文のまま記載します。

[岩手大会に参加して 小比賀健司（つくばROC）]

10月22日の日曜日に盛岡北の滝沢村で開催された岩手大会に参加してきました。

以前も大会を開いた「南部片富士湖」をリメイクしての開催ですが、特筆すべきは部員数たった7名でニューマップを作ったの大会開催に漕ぎ着けたという事でしょう。この熱意にこたえなくては男が腐ると言う事で、盛岡まで行ってきました。

今だから白状すると、たった7名での運営だということ、大会の中身にはまったく期待していませんでした。ところがどうして、地図も運営も7人でやったとは思えないくらいの高レベル。大変満足することができました。

男子は奥村理也氏が8400m/up345mを56分という脅威的タイムでぶっちぎりの優勝。女子は速報を見なかったのかわかりませんが、志村直子嬢が東北大現役生のどちらかでしょう。

運営は、地図調査は全員で、作図は外注？

当日はスタート・計セン2名、救護・給水1名、ゴール2名、受付・本部・販売2名というギリギリの体制で約100名の参加者をさばっていました。しかも、全クラスEMIT計時。

コンピューターのトラブルで速報が遅くなったのは残念ですが、それでも下手したら関東の大学大会でも岩手大に勝てない大会があるかもしれません。

本当によくやってくれました。頭の下がる思いです。アンケートの「次回の大会にも参加しますか」の問いには迷わずイエスと応えました。それほどいい大会でした。大変だと思いますが、また大会を開いて下さいね。

岩手大学のみなさん、どうもありがとうございました。

<OBの方々、必ず現役生の方々にお伝え下さい>

第18回岩手大学オリエンテリング大会成績 (上位3位)

MA 8400 m UP345m (31名)

- 1 奥村 理也 (30) ウルトラ倶楽部 00:56:33
- 2 長谷川 啓 (21) パワプロ愛好会 01:07:53
- 3 宗形 竜憲 (37) 二本松 OLC 01:12:05

WA 6400m UP300m (7名)

- 1 志村 直子 (26) カスイチ倶楽部 01:12:57
- 2 吉井 奈美 (27) かすいち倶楽部 01:47:32
- 3 岩間可南子 (20) 新潟大 OLC 01:54:31

MAS 6400m、300m (8名)

- 1 中里 勝彦 (29) 盛岡白百合学園 01:18:19
- 2 渋谷 友紀 (20) 埼玉大 OLC 01:23:29
- 3 酒井 清隆 (31) 01:23:56

MB 5500m、220m (3名)

- 1 三田村泰文 (59) 盛岡 OLC 02:06:07
- 2 関 俊夫 (70) 盛岡 OLC 02:52:33

N 3000m (1名)

- 1 北村奈津子 (21) 埼玉大 OLC 01:09:53

OA 6400m、300m (13名)

- 1 瀬戸口洋幸 (21) 東北大 OLC 00:58:18
- 2 井上 和茂 (25) 01:01:02
- 3 禅洲 拓 (20) 東北大 OLC 01:07:57

OB 5000m、160m (12名)

- 1 井上 史久 (26) 航走の会 00:51:53
- 2 納富 健 (21) 東北大四天王 00:52:57
- 3 平林 静保 (20) 東北大 OLC 01:00:11

ON

- 1 大原かおり (25) 裏下品の会 00:39:25

OG (5チーム)

- 1 白藤 裕久 (23) 加トゲ 00:48:39
- 2 井上 真理 (28) マリナオ 00:54:41
- 3 宿野部大助 (24) チーム池田 00:54:48

豪華OBメンバー、競う

大会当日の10月15日(日)は快晴に恵まれ、会場の根白石市民センターには予想以上の参加者がスタート地区行きの準備をしていた。

参加している東北大OBの面々を見ると過去のインカレチャンプ(入江崇、佐藤時則、石井泰朗)や入賞者・優勝リレーメンバーがごろごろ居る。

MEクラスは、このメンバーだけでもハイレベルの戦いが予想させるのに、今をときめくNTの松澤俊行、紺野俊介が顔が見える。カッシーも申し込んでいたが姿が見えないので来なかったようだ。

スタート地区までバス輸送だがEクラスのスタート地区が分離されて2方向への輸送だ。運営上は煩雑になるがEの競技性を重視している証拠だ。

地図は、1989年作成「座禅堂山」のリメイクだがOCAD作成(作図者:奥山有効、梶谷拓志)により、色がきれいで調査能力も格段に進歩しコンターやコントロール付近の精度に違和感は感じられなかったが、強いて言えば通行可能度のばらつき、小径・不明瞭な小径の取捨が統一されていなかった。

図名「雲居の座禅庵」、工事中の数力所があるが、落葉期の練習会に活用をお勧めできる。

MEの優勝は、予想通り松澤がダントツのタイムで他を制した。

その他のコースもオリエンテーリングをたっぷり楽しめたコースであったが、B&N、Gクラスは難易度が高いと感じられるので次回の工夫を望みます。

ゴール地区も2箇所、バスにより輸送していたが、近くに適当な会場施設がないのではないかかもしれないが、雨天や気温が低下したら心配の面はあった。



15番コントロールから道に出て来た紺野俊介

成績速報が、原因不明のパソコンプログラムトラブルの為遅れたが、以下は14:55現在の表彰者成績です。

ME			
1	松澤俊行	28 京葉 OL クラブ	1:17:13
2	紺野俊介	22 東西 OLK	1:33:22
3	渡辺研也	25 しましまフクの会	1:35:47



320のコントロール、尾根は木立の中(宗形竜憲)

M21A

参	山口尚宏	24 JANETS	1:10:53
参	山田敦史	24 青葉会	1:13:56
1	鈴木未生	21 OL 愛好会	1:22:21
参	篠原岳夫	23 川越市	1:23:36
2	井下田哲	23 東西 OLK	1:28:32
3	秋山 亮	21 祝北大学校卒獲得	1:29:41

M20A

1	高鶴哲也	19 筑波大 OL 愛好会	1:31:16
2	櫻田隆之	19 筑波大 OL 愛好会	1:33:29
3	佐藤 充	20 図書大 OLC	1:34:44



近く E クラスに登場を目指すぞ!

M2 1 AS

1	菊地弘昭	29 青葉会	1:17:20
2	相原俊明	27 青葉会	1:22:35
3	矢萩 靖	28 丘の上	1:28:06

M35A

1	七宮勝広	42 二本松 OLC	0:54:30
2	五十嵐則仁	43 横浜 OLC	1:11:10
3	永井永寿	44 二本松 OLC	1:31:20

M45A

1	三澤儀男	51 日立工機 OLK	0:59:02
2	武石雄市	63 SKI-O 研究会	1:14:30
3	田代弘之	47 チームゆうゆう	1:25:56

W21A

1	黒河幸子	20 筑波大 OL 愛好会	1:22:59
2	金子恵美	25 上尾 OLC	1:24:57
3	高島恵美子	29 つくば ROC	1:46:05

W21AS

1	池田有紀子	26 かこの姉	1:50:40
参	斎藤奈緒美	24	2:02:25
2	下野由美子	33 青葉会	2:15:21

W20A

1	吉田有希	19	宮城学院 OLC	2:31:33
2	櫻井優子	19	宮城学院 OLC	3:01:58
3	高泉佳苗	19	宮城学院 OLC	3:06:55

MB

1	神門賢二	26		0:35:36
2	東 大亮	22	青葉会ドットコム	0:36:55
3	阿部貴士	26	山形県	0:37:50

WB

1	清水まりこ	19	図情大 OLC	0:50:08
2	中西麻依子	19	図情大 OLC	2:06:36

N

1	高橋尚徳	20	無所属新	1:05:40
2	廣石 勉	24	学生	1:08:25
3	池田千里	56	野田山 FC	1:32:38

G

1	大沼由佳	21	宮城学院	0:38:12
2	山田亜紀子	25	MG さくら会	1:06:54
3	鈴木めぐみ	23	五月会	1:18:02

OB,東北大学大会を走る

松澤俊行(京葉 OLC)

さる10月15日、仙台市泉区「雲居の座禅庵」(うんごのざぜんあん)にて第23回東北大学大会が開催されました。当日は涼風そよ吹く好天に恵まれました。森林内の地面も乾いており、参加者一同、秋らしい気持ちの良いオリエンテーリングを満喫したようでした。

会場は千人規模の大会も十分受け入れ可能な堂々たる施設。仙台駅からのアクセスもプログラム掲載の情報より30分短く、ジャスト1時間。会場からスタート付近までは、ワゴン車(レンタカー)数台による輸送がなされていましたが、これがほんの5分から10分ほど。「歩いてもうそう長く感じなさそう」と、参加者一同拍子抜けしてしまいました。この日は交通状況も上々だったということでしょうか。

トレインについては、レース後に多くの参加者から「走りやすかった」との感想が聞かれました。地面の乾き具合の他、植生が想像以上に良く感じられたことが要因と思われる。裏を返せば、「地図を緑色に塗り過ぎでは?」とも言えます。調査期間が3月から9月、と知って納得しましたが、調査時期と開催時期によっては地図も全体的に白くなり、コース設定の自由度も上がるように思われます。ただ、「北」ではさまざまな局面で雪に対する考慮をしなければいけません。時期によっては、地図ではなくトレインそのものが白くなります。地図の緑の濃さにより、かえって運営者の苦心が伝わったような気もしました。

大会のその晩、東北大学部員に一部参加者を交えた出席者約100人の打ち上げが盛大に行われ、そこでは渉外上の苦労話なども気かれました。現役時代(註:筆者は東北大学オリエンテーリング部出身)は大会当日の寝不足などから「打ち上げは報告書発行後にやろう」との正論が口について出たものですが、部外者となった今はこういった交流の場もありがたく思えます。

打ち上げの話はそこそこに、運営に話を戻すと、スケジュール全体を1時間ほど遅らせて、より多くの愛好者が日帰り可能となる大会にして欲しいと感じました。競技志向クラブのイメージが強い東北大ですが、実際はいろいろな楽しみ方をしている部員がおり、いろいろな楽しみ方をする愛好者に対応できる大会を提供しているのですから、PR次第で大幅な参加者増員が見込めるはずです。

何やら大会出場期から提言めいた内容になってきましたが、ともあれ、大会準備に尽力された部員の皆さん、ありがとうございました。

さくらんぼの園OL大会

武石雄市

平成12年10月9日(祝) 山形県東根市
東根市内、二つの小学校を対象としたオリエンテーリング教室の大会成績です。

特筆する事は、Nクラスと小学校低学年クラスのコースは、北欧のように近い将来予定しているキッズクラスのテストケースとして全コースをテープ敷設して、一人で完走させる事を試みた。

結果は、何人がグループ状態になったり、年齢が高くなれば問題なく競争してくれるが、ドッグレッグ(出入り)になるコントロールにテープを敷設する祭の工夫が必要となる事が判明した。

ドッグレッグになっているコントロールが分岐しているテープ付近で確認できないと地図読みが出来ない年齢層は、そこを飛ばしてストレートに次のコントロール方向に走ってしまうからであった。

この事は、エリートといえども笑うべからず、7月のWCショート大会ラストコントロールで数人がパンチ後目の前にゴールが見え、大観衆が応援している中でチャイルドコースに敷設してあったテープに感わされたのか90度違う方向に走る選手を目撃した。

何を隠そう、村越選手も走りかけた一人である。

来年5月4・5日にもテープ敷設を予定しているが、今回の事を教訓にして、子供たちに森を走る喜びを体験させたいと思っています。

MA

1	山田敦史	24	秋田市	1:07:29
2	大江恒夫		OLP兵庫	1:13:03
3	柏倉佳介	21	東北大学	1:19:59

WA

1	本多祐子	20	東北大学	0:51:59
2	平林静保		東北大学	1:16:18